

No. 331【2018年11月9日配信】
合浦公園の「日清戦役忠魂碑」(担当:鈴木)

こんにちは、囑託員の鈴木です。

合浦公園の市営野球場北側に、昭和11年(1936)4月14日建立の「日清戦役忠魂碑」があります。忠魂碑とは地域出身の戦死者を慰霊・記念するもので、明治から昭和戦前期にかけて全国各地でつくられました。



日清戦役忠魂碑

この碑について、公園内の碑を紹介した本『合浦の碑』(昭和39年青森市教育委員会)には碑文が載っているだけでとくに解説はなく、これまであまり気に留めずにいました。

ところが先日、昭和11年1月13日付の『東奥日報』に「未完成の日清役戦没者忠魂碑 合浦公園に建設計画」という記事を見つけました。そこには、合浦公園の海岸に70余名の名前を刻んだ大石(約3.3m×2.4m)と近くにもうひとつの大石(約3m×1.5m)が埋もれているのが発見され、これが日清戦争戦没者の忠魂碑と判明したので市民に寄附を募って建設すると書かれています。

さらに記事を追うと、同年4月14日に地鎮祭を、5月20日には除幕式が挙行されています。除幕式には歩兵第五連隊将校をはじめ官公庁関係者、東奥日報社社長、学校関係者、中等学校生徒など約300人が参列し、盛大に行なわれました。

しかし、なぜ日清戦争(1894-95)から40年あまりも経って建立されたのか。未完成で海岸に埋っていたとはどういうことか。どうにも不思議に思っていましたら、その事情を書いた記事を見つけました。

もともとこの碑を計画したのは、建立者のひとり市内大町の西田久助でした。日清戦争から帰還した西田は、明治30年(1897)に10人ほどの仲間と忠魂碑建立の計画を立てます。それは、生還したものがあれば忠魂碑を建てるという出征の際に戦友たちとかわした約束を果たすためでした。彼らは関係者に寄附を募り、また渡辺佐助、樋口喜輔、吹田銚三郎、淡谷清蔵といった市内の有力者の賛助も受けましたが、公園に石を運び入れ工事に取りかかったにもかかわらず、資金の問題などで計画が頓挫し石は海岸に放置されてしまったというのです。

その後、戦没者遺族のひとりがこの石のことを知り、兄弟の名が刻まれた未完成の石碑を何とかしたいと、西田ほか有志らと協力して再び建立のために寄附金を募集し、ようやく完成をみたのでした。



戦没者の名前が刻まれた面

合浦公園の海岸に、戦没者名が刻まれた大石が 40 年も埋もれていたという話はちょっと信じがたい気もします。でも、何気なく見ていた公園の石碑に、意外な経歴があったことに驚きました。